



「読書活動のススメ」

「読書ノート」の取組をすすめます。



子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力や想像力を豊かなものに、人生をより深く生きる力を身につけていく上で、欠くことのできないものです。本校においては、今年度から学校司書が配置され、今まで以上に読書活動や本を活用した学習に取り組んでいます。また、読み聞かせボランティアさくらんぼさんによる読み聞かせ、6月には「絵本ひろば」と、子どもたちが読書に親しむ機会を設けています。

子どもたちには、「読まされる読書」ではなく、自ら「読みたい」「知りたい」「考えたい」という思いをもった読書をしてほしいと考えています。子どもたちが読書活動を通じて、豊かな人間性や感性、読解力などが育むことができるように読書活動を推進していきます。

読書の効果として、次の5点が身につくと言われています。

- ①記憶力 ②集中力 ③脳の活性化 ④心の落ち着き ⑤会話力

また、独立行政法人国立青少年教育振興機構が全国の20～60代の男女5,000名（各年代男女500名ずつ）を対象にした「子どもの頃の読書活動の効果に関する調査研究」の結果によると、次のような傾向が見られたということです。

- 子どもの頃の読書量が多い人は、意識・非認知能力と認知機能が高い傾向がある。
- 読書のツールに関係なく、読書している人はしていない人よりも意識・非認知能力が高い傾向があるが、本（紙媒体）で読書している人の意識・非認知能力は最も高い傾向がある。



今年度、大阪読書推進会が読書推進のために「読書ノート」を配付している活動に申し込んだところ、児童数の「読書ノート」をいただくことができました。この「読書ノート」には、読書をしたら、読んだ本のタイトルや読んだ日付、感じたことなどを書いていきます。1～4年生は100冊、5・6年生は50冊読むと、希望する方は達成カードを大阪読書推進会へ提出し、朝日新聞デジタルの達成者名簿に氏名が掲載されます。（5・6年生については、朝日新聞にも掲載されます。）氏名掲載を希望しない児童についても学校で表彰状を渡す予定です。詳細につきましては、締切日近くに対象者に案内文を配付いたします。

（以前勤めていた学校の図書館に掲示されていた言葉です。）

本を読む子は
やさしい気持ちが
心にたまる
言葉がいっぱい
心にたまる
知識がいっぱい
心にたまる
正しい力が
心にたまる
楽しい世界が
心にたまる

どくしょ
読書ノート



「本のタイトル」と「読み終わった日」は必ず書いてください。

さつよ
10冊読んだら、
こうしようしつ
校長室へGo!

校長先生がシールをはります！ めざせ！150冊！
校長室のドアが開いている20分休み・昼休みに来てね。
（ドアが開いているときは、ごめんね！）
「失礼します。」とあいさつできるかなあ。待てるよ！

子どもたちが読書ノートを見せに来てくれるのを
楽しみにしています！